まち、ひと、湯前の元気と魅力を届ける［広報ゆのまえ］

yunomae 04

2017.APR
Vol.430

スタートライン。

感謝を胸に、新たな門出
卒業式・卒園式

サンジ役の声優が来町！
声優平田広明ファンミーティング

生まれ変わった体育館で楽しむ
B&Gリニューアル記念大会

協力隊安井が密着！
龍谷大学柔道部湯前合宿

【今月の表紙】
湯前保育園キッズサッカー

Close up

湯前中学校卒業式

深いきずなが生まれた3年間

平成28年度第70回湯前中学校卒業式が3月12日、同校体育館で開かれ、卒業生27人が迫田正純校長から卒業証書を受け取り、3年間通った学舎を飛び立ちました。

迫田校長は「日々授業に集中している姿や積極的に発言する姿。体育祭や文化祭、いろんな場面で学校を引っ張ってくれた。多くの人に支えられて今がある。努力を積み重ねつつ、感謝の気持ちも持ち続けてほしい」とエール。同校PTA会長の山崎久富さん（52＝上里1）が「卒業生全員が湯前中の宝。4月からの新しい学校生活を楽しんで過ごしてほしい」とあいさつし、津軽三味線で卒業生の門出を祝いました。

門出の詩では、卒業生が修学旅行や、体育祭、文化祭などでの思い出を語り、恩師一人一人にも涙ながらに感謝の言葉を伝えました。保護者には「いろいろ迷惑をかけたけれど、一番感謝しています。ありがとう」と思いを伝え、保護者もハンカチで目をおおい、涙をぬぐっていました。

卒業生は在校生とも歌やメッセージを交わし合って別れを惜しみました。その姿に3年間で生まれたきずなの深さが表れていました。

大きな返事で卒業証書を受け取る卒業生

別れを悔しむ後輩から花束を受け取った

保護者や教師に感謝の気持ちを伝えた「門出の詩」

Close up

湯前小学校卒業式

大切な仲間と思い出できた6年間

平成28年度湯前小学校卒業式が3月24日に同校体育館で開かれ、卒業生33人が6年間の思い出を胸に、中学校へと旅立ちました。

名前を呼ばれた児童はステージに立ち、それぞれ将来の夢を大きな声で発表。その後、西浦大蔵校長から卒業証書を受け取りました。

西浦校長は「運動会の組み体操や被災地へ元気と歌声を届けるためのテレビ出演、湯前町PR大使の活動など、いろんな挑戦をしてきた。今発表した将来の夢に向かって、周りの人への感謝の気持ちを忘れず、努力し続けてほしい」とあいさつ。卒業生は背筋をまっすぐ伸ばし、大きな声で「ありがとうございます！」と返事をして成長した姿を保護者にみせていました。

卒業生の「門出の詩」では入学時からの6年間の思い出を発表。「大切な友達とこんなにすばらしい思い出ができました。大きな夢に向かって新しい道を歩んでいきます」と元気に発表し、家族や教師、在校生にも感謝の言葉を伝えました。

会場には「一緒に遊んでくれてありがとう」「登校班で先頭に立ってくれてありがとう」などの在校生からのメッセージも飾られ、卒業生は会場の大きな拍手を受けて、中学校へと旅立っていきました。

たくさんの思い出をつくり合った33人の仲間

背筋を伸ばし歩く姿で
6年間の成長をみせた卒業生

湯前保育園卒園式

家族と交わす感謝の気持ち

湯前保育園の卒園式が3月18日に、同園で開かれ、16人の卒園児が東理絵園長から保育証書を受け取り、歌やメッセージで保護者らに感謝の気持ちを伝えました。

名前を呼ばれた卒園児は「はい！」と大きな返事でステージに。会場のスクリーンには保育園での思い出の写真が映され、「これからも応援しているよ」「小学校でも一緒に頑張ろう」などと一人一人に家族からのメッセージも添えられました。

東園長は「保育証書はいろんな経験をしてきた証。言った人も言われた人も、聞いた人も幸せになるような『あったかことば』を大切に、小学校でもたくさんの友達をつくってほしい」とあいさつ。東園長から保育証書を受け取った園児は家族の元へ行き、将来の夢を伝えて証書を手渡しました。

卒園児の発表「おもいでのアルバム」では、運動会や発表会など楽しかったことや頑張ったことを発表。「今までありがとうございました」と卒園児から感謝の言葉を送られた保護者や保育士たちは涙を流していました。

「おとうさんありがとう」と
感謝の気持ちとともに証書を渡す卒園児

Close up

湯前町歴史的風致維持向上計画を国が認定

町のおもむきを活かしたまちづくりへ

「湯前町歴史的風致維持向上計画」の認定式が3月17日に東京都千代田区の国土交通省で開かれ、本町が熊本県内2番目となる認定を受けました。

3大臣連名の認定書を受け取る鶴田町長

地域の歴史的な建物や人の活動を活かしたまちづくりを支援するため、平成20年に「歴史まちづくり法」が策定。国が市町村の計画を認定してまちづくりを支援しています。

本町は「里宮神社の祭礼行事」「相良三十三観音めぐり」「幸野溝と球磨焼酎」の3つでつくられる「湯前町歴史的風致維持向上計画」を作り、文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣から認定を受けました。本町の認定は全国62番目で、県内では平成21年度の山鹿市に次いで2番目になりました。

認定式では、本町と一緒に認定を受ける秋田県大館（おおだて）市、山梨県甲州市も出席。藤井比早之（さゆき）国土交通大臣財務官が3大臣連名の認定証を鶴田正已町長へ手渡しました。鶴田町長は「球磨地域の風景は中世のおもむきを感じさせてくれるもので、地域住民の暮らしの中で大切に受け継がれてきた。計画の推進で歴史的建造物の保存や伝統的な活動の継承、地域住民の交流や地域の活性化が推進され、ふるさとへの愛着や誇りが高まっていくことを願っている」と計画書の中で語っています。

本町を含む人吉球磨10市町村が申請した相良700年のストーリーが2年前に日本遺産に認定。幸野溝は昨年11月に世界かんがい施設遺産に登録され、東方太鼓踊りがことし2月に「第17回地域伝統芸能まつり」へ出演するなど、本町の文化に注目が高まっています。

平成29年度から平成38年度までの10年間、文化財などの修繕や道路の美装、無形文化財の保存・継承などを行い、歴史的な景観を活かしたまちづくりを進めていく予定です。

三つを中心とする計画が国の認定を受けた

三つの歴史的風致

相良三十三観音

相良三十三観音めぐりは江戸時代に始まったとされています。春と秋の彼岸に人吉球磨33カ所の札所が一斉に開帳。地域の人が協力して茶菓子を振る舞う「お接待」もあり、近年巡礼者が増えています。本町には上里の町観音と宝陀寺観音の二カ所があります。巡礼者が白衣姿で札所の名前を読み込んだ歌を唱えて巡礼する光景は、この地域に季節の訪れを知らせています。

里宮神社の祭礼行事

市房山神宮里宮神社は湯前城跡に建つ神社で昭和9年に建てられましたが、由緒は16世紀ごろ。市房山神宮だった普門寺などで修行が行われ、歴代の相良家当主や領民からもひろく信仰されていました。神仏をおがむ場所として再興されたあとも、「里宮さん」の名前で親しまれています。春秋の大祭では、町内でみこし担ぎ、球磨神楽、太鼓踊り、棒踊りの伝統芸能が奉納されていて、町民の心のよりどころとして地域に欠かせない存在です。

幸野溝と球磨焼酎

幸野溝は江戸時代の新田開発とともに作られ、難工事を経て宝永2年（1705）に完成。球磨地域を有数の農業地帯に発展させました。現在でも耕作地や水路では祭礼行事が開かれ、防災でも地域の重要な施設になっています。

日常からうたげの席まで生活のさまざまな場面で酌み交わされているのが球磨焼酎。近年では世界貿易機関の産地表示の指定を受けて、世界的なブランドになっています。

季節の訪れを告げる一斉開帳（宝陀寺）

秋の大祭での太鼓踊りの奉納

世界かんがい遺産の幸野溝と
世界的ブランドになった球磨焼酎の仕込み

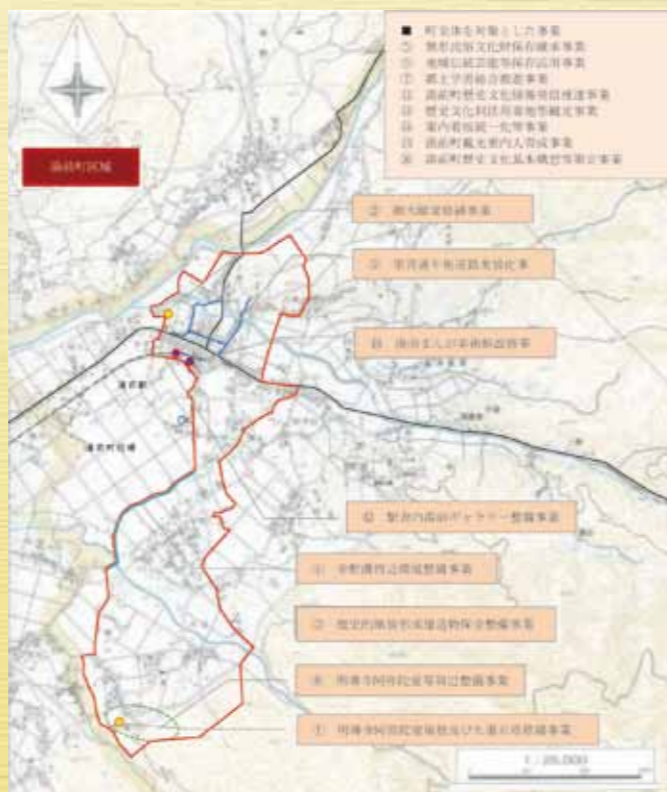
主な施策

■歴史的な建物の維持・保全
城泉寺阿弥陀堂のかやぶき屋根と九重石塔の修繕
大正13年に作られた湯前駅舎の景観を維持・向上

■まちなみと景観づくり
里宮通りなどの道路の美装化

■歴史的資源を活かした観光振興と情報発信
湯前まんが美術館を利便性・展示機能の拡大

■無形民俗文化財の保存・継承
東方太鼓踊りや浅鹿野棒踊りなどの継承支援で地域を活性化

■まちの風致を維持・向上するための計画策定

今後10年間歴史的な景観を活かして整備が行われる

No.1

声優ファンミーティング
サンジ役声優、平田さんのトークにファン熱狂

「ONE PIECE（ワンピース）」の人気キャラクター、サンジの声を担当する声優、平田広明（ひろあき）さん（53＝東京都出身）のファンミーティングが2月26日にふれあい交流センター「湯～とぴあ」で開かれ、抽選に当選した50人がトークショーや生台詞に酔いしれました。

イベントは熊本復興プロジェクトの一環として町と「くまもとメディアコンテンツコミッション協議会」が主催。復興支援として昨年10月から湯前駅～人吉温泉駅を走るワンピースラッピング列車の最終運行日に合わせてイベントが開催されました。

平田さんはアニメのキャラクターだけでなく、アメリカの人気俳優、ジョニーデップの吹き替えやナレータとしても活躍する名声優。全国にファンも多く、イベントには関東、北陸など全国各地から120人を超える応募がありました。

タレントの太田弘樹（ひろき）さんが司会を務め、トークショーがスタート。平田さんは声優になったきっかけ、ワンピース作者の尾田栄一郎（えいいちろう）さんや声優陣との裏話、キャラクターとの思い出などを語りました。

収録での裏話や声優としての思いを語った平田さん

参加者からの質問コーナーで、「声優として大切にしていることは？」と質問された平田さんは「メッセージを伝える仕事。そのメッセージをぶらさないように、伝えたい熱意を持つようにしている」と熱く回答。平田さんの直筆サインが当たるジャンケン大会も盛り上がっていました。

参加者の寺尾佳子（けいこ）さん（43＝福岡県）は「長年平田さんのファンだが、こんなに近くで平田さんを見ることができて感激した。スタッフの対応も良く、スムーズな進行でイベントを楽しめた。初めてサインをもらったので、家宝にしたい」と笑顔で話していました。

3人に平田さんのサインが当たるジャンケン大会も盛り上がった

会場を熱く盛り上げた平田さんと全国からのかけよったファン

テープカットでリニューアルを祝う関係者

No.2

B&G海洋センターがリニューアル
床やトイレなどを改修 ビーチボールバレーやウオーキングを楽しむ

B&G海洋センター体育館のリニューアルを記念した式典が2月26日に同体育館で開かれ、関係者や住民約100人が参加。生まれ変わった体育館で開かれたビーチボールバレー大会やウオーキング教室もあり、住民は楽しみながら汗を流していました。

同体育館は昭和57年に建設され、昭和60年にB&G財団から町に無償譲渡。昨年9月に同財団から修繕の助成を受けて、体育館の床や天井の修繕、照明のLED化、トイレの洋式化などを行いました。

式典では鶴田正巳町長が「高齢化が進み、一人一人が長く健康で居続けることが必要。リニューアルで健康づくりの体制が整いつつある。地域の皆さんが健康で楽しく過ごせるよう、コミュニケーションの場としても活用いただきたい」とあいさつ。財団専務の菅原悟志（さとし）さんは「湯前町の熱意と活発な活動は全国のセンターの模範。喜んで協力させていただいた。生まれ変わった体育館で皆さんの望む使い方をしてほしい」とあいさつし、関係者らがテープカットを行いました。

熊大生が正しい歩き方を教えるウオーキング教室

リニューアルを記念して、ビーチボールバレー大会や熊本大学の現役陸上競技選手らによるウオーキング教室・陸上教室も開催。ビーチボールバレーには町内から11チームが出場し、黒木真也（しんや）さん（41＝上里3）が「待ちに待ったこの大会。楽しく汗を流して交流を深めます」と元気に宣誓。参加者はNPO法人ひとづくりくまもとネットと熊本大学の協力で開発した「ゆのまえ体操」で体をほぐし、元気にプレーしました。ウオーキング教室では、歩き方の指導を受けた住民らが学生と一緒に2.2キロのコースを歩き、楽しく汗を流していました。

新しくなった体育館でビーチボールバレーを楽しむ住民

2度目となる表彰を喜ぶ会員たち

No.3 熊本県読書活動功労者表彰

読み聞かせなずなの会に優良読書グループ表彰

平成28年度熊本県読書活動推進功労者・優良読書グループ表彰式が2月22日に熊本県立図書館で開かれ、「ゆのまえ読み聞かせなずなの会」(園田篤子代表＝17人)が優良読書グループ表彰を受けました。

読み聞かせなどで地域や子どもの読書を推進する個人・団体を表彰するもので、熊本県図書館活動振興協議会と県立図書館が主催。今回は県内3団体が表彰されました。

なずなの会は平成15年に発足。「一人でも多くの子どもたちに読書の喜びを感じてほしい」と現在、湯前小・中学校に出向いて、毎月第2、第4金曜日の朝に全クラスで読み聞かせをしています。子育て支援として講演会を開き、1歳児検診時には手作りの布絵本をプレゼント。ほかにも町内イベントでのバザーの益金を図書カードとして湯前小・中に寄贈するなどの活動が評価され、平成20年以降となる2度目の表彰を受賞しました。園田さんは「活動を通じて子育てにかかわることが会員のいきがいにもなっている。いろんな世代が子育てにかかわる中でつながっていくとうれしい」と話していました。

No.4 活き活き健康クラブ

地区で集まり健康アップ

上村地区活き活き健康クラブの体力測定が3月2日に上村地区公民分館で行われ、区民17人が4カ月の体操の効果を実感していました。

「長く健康で居続けよう」と住民みずからが介護予防に取り組むもので、昨年10月に上村区、野中田2区の2地区で「いきいきクラブ」が発足。ことし2月から野中田3区、3月からは馬場区の山口公民分館でも行われています。

湯前町や町社会福祉協議会、上球磨支援包括センターなどが最初の1カ月間協力し、区民は毎週1回、公民分館に集まって体操。今回は発足当時に計った「立ち上り・歩く速さ」「片足立ち」「握力」「足の指の力」を再度測り、4カ月の効果を確認しました。

歩く速さの計測ではイスに座った状態から立ち上がって3メートル先のコーンを往復。前回から2～3秒ほど速くなっている人がいるなど、効果が多きく表れていました。参加した那須和子さん(70＝上村)は「みんなでやると楽しい。何より自分が健康になっていくことを感じられるのでやりがいがある」と話し、古市眸さん(73＝上村)は「片足立ちが長い時間できるようになった。周りの人に比べたらまだまだなのでもっと頑張りたい。友達と仲良く体操できるので、これからも続けていきたい」と話していました。野中田2区でも3月8日に同じ体力測定が行われ、区民16人が参加しました。

歩く速さを計り、4カ月の効果を実感した住民ら(上村区)

ほとんどの人の片足立ちのタイムが伸びた(野中田2区)

No.5 足づくり教室

「体の調子良くなった」参加者が効果を実感

平成28年度最後の足づくり教室が3月7日に湯前町保健センターで開かれ、15人が実際に外を歩いて3カ月の効果を実感していました。

教室は足腰に不安や悩みを抱える65歳以上の住民を対象に町が主催。昨年12月13日に第1回が開かれ、歩く速さや握力などを測定しました。参加者は「以前のように1時間散歩ができるようになりたい」などと一人一人目標を立てて、ひざ・腰の痛みや認知症についての知識を学び、トレーニングやエクササイズを週1回、3カ月続けました。

2月21日の教室では、再度体力測定を行い、参加者の歩く速さや片足立ちのタイムが向上。「ひざや腰の痛みがなくなった」「歩き方がよくなった」「体の調子が良くなった」などと効果を実感していました。

最終日の3月7日にはノルディックポールを使って保健センターから湯前駅までの約500メートルを実際に歩き、元気な姿を見せていました。

ノルディックポールを使って、実際に町内を歩く参加者

No.6 平成28年観光統計

復興プロジェクトや日本遺産で観光客5万8千人増

3月3日、湯前町は「平成28年度観光統計」の結果を熊本県へ報告。昨年度と比べて、約5万8千人増となる24万7千人が本町の観光・文化施設を訪れていることが分かりました。

毎年1回行われる調査で、1月1日から12月31日までに本町を訪れた観光客数をデータ化し、公表するもの。各市町村が調査し、国や県がとりまとめています。観光客の総数だけでなく、日帰り・宿泊や県内外・外国人などの内訳、主な施設ごとの客数も調査。平成27年度に本町を訪れたのは18万9千人でしたが、本年度は24万7千人で約5万8千人増えていることが分かりました。

熊本地震の影響でイベント数や宿泊者数は若干減りましたが、復興プロジェクトとして企画された「くまモン頑張れ絵展」や「ワンピース特別展・ラッピング列車」、人気漫画家、藤田和日郎さんの特別展などで湯前まんが美術館の来場者数は過去最高の9271人に。日本遺産認定の影響で城泉寺や八勝寺などの文化財を観光する人も増加。ゆのまえ温泉「湯楽里」に台湾から13団体256人が訪れるなど外国人客や日帰り客数も増えました。

過去最高の来場者数を記録したまんが美術館（ワンピース特別展）

■H28年とH27年の湯前町の観光客数（1/1～12/31）

	H28	H27	増減
観光客総数（人）	247,926	189,425	58,501
日帰り	239,367	180,272	59,095
宿泊	8,559	9,153	－594
外国人宿泊	34	0	34
観光消費額（円）	749,028	604,171	144,857

↑昨年度と比べて観光客総数が約５万８千人も増えている

■施設ごとの観光客数

施設名	観光客数（人）			前年度	増　減	増減の理由
	県内客	県外客	合　計			
ゆのまえグリーンパレス	21,261	5,338	26,599	20,588	6,011	遠足、日帰り客などの増加
湯前まんが美術館	6,025	3,246	9,271	4,093	5,178	新たな特別企画展やサイン会などの開催
B&G海洋センター	27,529	110	27,639	25,066	2,573	トレーニングルーム、ロビー整備で利用増
城泉寺	2,540	1,091	3,631	2,311	1,320	日本遺産認定によるツアー客増、駐車場整備など
普門寺観音	1,346	578	1,924	1,863	61	
上里の町観音	1,406	603	2,009	1,735	274	
宝陀寺観音	1,123	483	1,606	1,517	89	
八勝寺	1,420	608	2,028	1,063	965	H27.5月落成後、認知度アップ。近くの城泉寺とあわせて参拝客が訪れた
ゆのまえ温泉湯楽里	89,006	22,251	111,257	104,713	6,544	コテージの新設、九州復興割の発行など
湯～とぴあ	17,487	3,876	21,363	18,539	2,824	
湯前まんが図書館	2,084	288	2,372	3,351	－979	熊本震災の影響で町への入り込み客数が全体的に減少

↑日本遺産の認定などで文化財を訪れる人も多くなった

No.7 無人ヘリコプター安全飛行技術競技熊本県大会

㈱美農里の右田さん、内田さんが全国へ

チームワークで好成績をおさめた右田さん（右）と内田さん（左）

第13回無人ヘリコプター安全飛行技術競技熊本県大会が3月7日に合志市の熊本県農業公園カントリーパークで開かれ、㈱美農里（澁谷敬司代表＝10人）に所属する右田大輔さん（29＝浅鹿野）と内田真治さん（42＝水上村）が「5年以上の部」で2位に輝きました。

農薬散布などに使われる無人ヘリの安全や技術の向上を目的に県無人ヘリコプター導入組織連絡協議会（事務局＝JA熊本経済連）が主催。「免許取得から5年未満の部」と「5年以上の部」の2部門で開かれ、県内8団体21チームが出場。オペレーターとナビゲーターが二人一組でヘリを操作し、約80ﾒｰﾄﾙのコースで薬剤に見立てた水を散布しながら、飛行の安全性と技術の精度を競いました。

右田さんがオペレーター、内田さんがナビゲーターを担当。二人は4年前からペアを組み、初の入賞を果たしました。右田さんは「風や障害物などその時の条件に合わせた操作が必要で、気持ちの動揺が操縦に出る。気象条件が良かっただけでなく、内田さんがたくさん言葉をかけてくれて、気持ちが落ち着いたことで練習どおりに操縦できた」と話しました。

二人はことし10月に茨城県で開かれる全国大会に熊本県代表として出場。内田さんは「お互いの連携やコミュニケーションを深めながら、優勝できるように頑張りたい」と意気込みを語りました。

No.8 民生委員5期15年

太田さんに社会福祉功労者知事表彰

平成28年度熊本県社会福祉功労者知事表彰伝達式が3月7日に湯前町保健センターで開かれ、民生児童委員を務める太田末男さん（76＝古城）に表彰状が贈られました。

社会福祉の向上に著しい功績があり、模範になる人や団体の功績をたたえ表彰するもので、熊本県が主催。太田さんは5期15年同委員を務めていて、昨年12月には九州社会福祉協議会連合会会長表彰も贈られています。

伝達式では鶴田正巳町長から太田さんに表彰状が手渡されました。鶴田町長は「多岐にわたる活動に感謝している。高齢化が進む社会で地域の皆さんに安心して住んでいただくために、ご自身の生活も大切にされながら、活動に当たっていただきたい」とあいさつし、太田さんは「少子高齢化などで地域福祉の課題も複雑になっている。活動を続けてこられたのは地域の皆さんの協力のおかげ。とても感謝している。これからも関係機関と協力しながら活動を続けていきたい」と話していました。

鶴田町長から表彰状を受け取る太田さん

龍谷大卒業生の協力隊安井が密着しました！

龍谷大学柔道部が湯前で合宿

私も所属していた龍谷大学女子柔道部（堀田幸宏監督＝京都府）の部員24人が2月21日～25日に本町で合宿を行いました。この合宿がきっかけで湯前を知って好きになり、2年前に兵庫県から移住した私が合宿をリポートします！

reporter
安井 佳奈
（24＝中猪）

Profile：龍谷大学柔道部時代に合宿で来町。人の温かさに魅力を感じ湯前への移住を決め、現在地域おこし協力隊として活動中。大学時代は関西大会個人戦２位。移住後は九州女子柔道選手権に２大会連続出場。現在、湯前少年柔道クラブで指導もしている。

柔道の楽しさを伝えるのも大学生の役目。練習中は笑顔いっぱい！

世界の舞台で活躍

合宿は明導寺（上里３）住職で湯前少年柔道クラブの監督を務める藤岡顕教さん(42)が同大学のコーチを務めていたことがきっかけで平成17年から始まり、ことしで12回目。龍谷大は昨年の全日本学生柔道優勝大会で団体５位、個人でも世界大会で優勝する選手がいる日本屈指の強豪校です。３月５日に試合を控える部員はランニング、実践練習などで本番に向けて調整しました。

楽しさややりがいを伝え合う

大学生は自分の練習だけでなく、慈光こども園で柔道教室を開いたり、少年柔道クラブに通う小中学生に技のコツを教えたりと、町に出て活動。柔道の楽しさを伝えています。

同部を卒業し、㈱ベネシードで実業団選手として活躍する小野彰子さん(24)も合宿に参加。「昔は小さくて弱く、何度も投げ飛ばされた。悔しい思いをした分練習したので強化選手として世界で試合できるようになった。あきらめずに続けていればいつか花が咲く日が来る」と子どもたちにメッセージを送りました。

柔道教室で一生懸命話しを聞く子どもたちの姿を見て「私も頑張ろう」と初心にかえる大学生。逆に子どもたちからもパワーをもらいます。

湯前の食や暮らしを体験

21日の夜には町の人が鹿肉や猪肉などをふるまってくれました。大学生のほとんどが見るのも食べるのも初めて。おにぎりや、甘くて大きいイチゴなどの湯前の味もごちそうになり、町の人との交流を楽しみました。学生たちは球磨弁に悪戦苦闘。私もまだまだ勉強不足でみんなと一緒に球磨弁を教えてもらいました。

合宿中は湯楽里の新しいコテージに宿泊しました。学生たちは木の香りや部屋の作りの違いを堪能。社会人で柔道を続ける卒業生二人も合宿に参加し、私の家で空き家暮らしを体験してもらいました。

人のぬくもりを感じる

「後輩が湯前に来てくれたんやろ？」。合宿後、町の人がたくさん声をかけてくれて、学生が知らないところでも町の人が応援してくれていることに気づきました。合宿に同行した大学生の保護者も「私たちのために城泉寺を開けてくれたり、保育園の発表会練習を見せてもらったりしておどろいた。私が住んでいるところではないこと」と人の温かさを感じていました。

お互い「もっと好き」に

藤岡さんは「合宿を続けて行うことで応援してくれる人が増えた。すぐにできるきずなではない。柔道が強いだけでなく、人として大切な礼儀・礼節をきちんとしていることを小中学生に学んでほしい」と思いを語ります。

小・中学生が書いた大学生へのお礼の手紙の中には「教えてもらった技を何回も練習して、試合で一本を取ります」「来年もまた湯前に来てください」などの言葉がたくさん。毎年大学生が湯前に来るのを楽しみにしています。

学生たちは普段の生活で体験できない、ゆっくりと流れる時間を楽しみました。私自身、この合宿で町内を歩いているときに町の人にあいさつされたことに驚き、それがきっかけで湯前が好きになりました。学生たちがもっと湯前を好きになれるよう、町のことを勉強して、来年は私が案内したいと思います！

参加者に感想を聞きました！

主将 山田 美咲さん
（21＝龍谷大４年）

主将としてあいさつや礼儀をしっかりして合宿にのぞみました。練習で小中学生と仲良くなり、柔道もコミュニケーションの一つだと思わされました。声をかけてくれる町の人がすごく温かかったです。個人としての目標は関西学生大会で優勝、全日本学生大会で入賞すること。チーム目標は関西学生大会で連覇、全日本学生大会でベスト４以上の成績を残すことです。個性を出して、周りの皆さんから応援されるチームにしたいです。

児島 有紀さん
（20＝龍谷大３年）

湯前はご飯がおいしく増量のチャンスだと思いました。子どもたちの元気にびっくり。私が柔道を始めたときは『こんなに元気だったかな？』と思ったほどです。京都に帰っても、子どもたちのような元気で頑張ります。ことしこそ全国の舞台に立ちたいです。

藤山 憲史郎くん
（湯前小６年＝上染田）

大学生との練習で特に楽しかったのが乱取りです。教えてもらった背負い投げのコツを練習して、試合に活かしたいと思います。

有野 涼さん
（19＝龍谷大２年）

町のいろんな人の支えに感謝した合宿でした。温かな人に、かわいい子どもたち。教室では投げることの楽しさを教えることと褒めることを意識しました。投げて喜んでくれたときは私もうれしかったです。昨年の全日本学生大会は個人３位でしたが、ことしは日本一目指して頑張ります。

中礼 友志くん
（湯前中３年＝野中田２）

普段できない大学生との練習で、今の自分の力を試すことができました。次の中体連が最後になるので、今回教えてもらったことを活かして、どんな相手にでも一本を取る技を身につけます。

1 柔道教室では大学生が自分の得意技を伝授 2 それぞれ分かれて技をかける子どもたちにコツを指導 3 大学生を投げる子ども。投げる喜びを知ってほしいです 4 交流会では町民も大学生も出し物を用意。楽しんで交流しています 5 小野選手の話しに多くの子どもたちが勇気をもらっていました 6 帯をしめ直し、積極的に大学生に挑戦！

Vol.1　城泉寺阿弥陀堂

文化のタカラ

～日本で最も豊かな隠れ里の歴史～

城泉寺は「浄心寺（じょうしんじ）」という名前で、1222年に建てられたとされています。当時はお坊さんが生活する宿舎や薬師堂、石塔などもありました。1862年に人吉で起こった「寅助火事」で多くの寺院が焼けてしまい、宿舎が人吉に移ったことで浄心寺が廃寺。阿弥陀堂は住民の手で守られ、現存する県内最古の木造建築になっています。

お堂の柱はツガ・モミが使われ、太いのが特徴です。中には３体の阿弥陀像。左にある観音菩薩の台座や七重・九重の石塔には年号が刻んであり、阿弥陀堂もその年号と同じ1229年から1300年ごろ建てられたと思われます。当時の日本に中国の宋の建築様式が伝来し、阿弥陀堂の扉も影響を受けています。

現存する熊本県最古の木造建築物として親しまれる城泉寺阿弥陀堂

問　教育委員会　TEL0966－43－2050

INFORMATION　湯前町からのお知らせ

排水・トイレに異物を流さないで！

マンホールポンプの停止や下水道管の詰まりが家庭排水の流れを悪くしています。次の三つを守って下水道を正しく使いましょう。

①パンツ・布・紙おむつ・新聞紙・生理用品など水に溶けにくいものは流さない

②宅内の升（ます）ふたはしっかり閉まっているか、破損はないか点検

※異物が入る原因になります

③油を流さない

※油は下水道管の中で固まり、管が詰まります。凝固剤などで固めて燃えるごみに出してください。

◎ポンプ停止（タオルの詰まり）

◎下水道の管の詰まり（油の固まり）

湯前のよか✶とこ発見！

～地域おこし協力隊です～

今月のリポーター ✶ 森田（もりた）　明大（あきひろ）

湯前にやってきた春

吹く風が冷たい日もありますが、暖かい日が多くなり、春がやってきました。春といえば皆さんは何を思い浮かべますか？　今回は湯前にやってきた春を紹介します！

1 菜の花にはせっせと働くミツバチ 2 ホトケノザのピンクと空の青さがとてもきれいでした 3 春の味をいただきます 4 ３月の初めには町内のあちこちで梅が咲いていました 5 色づき始めた土の上。土の中ではもぐらが動きだし、トンネルを作っていました

今月のゆのまえがお　竹下（たけした）　裕一（ゆういち）さん（50=上里１）

「笑顔がすてき」「何かＰＲしたい」などたくさんの人を待っています！（総務課　地域おこし協力隊まで　TEL 0966-43-4111）

ひとこと「皆さん４月29日（土）のゆのまえおっぱい祭りに遊びに来てください！おっぱい祭り大好き！」

春の湯前を元気いっぱいに盛り上げる竹下さん

ほかにもゆのまえ情報がいっぱい！くわしくは湯前町総合情報サイト、ゆのまえかじり内の「ゆのまえがお」へアクセス！

https://www.yunomae-kaziri.com/

（ゆのまえかじり　と検索してもアクセスできます）

「春到来？？」

協力隊のゆのまえ暮らし（隊員がゆる～く近況報告）

湯前の春。なかなか気温の変化に慣れずに苦労しています…。そんな中、外を元気に走り回っていた息子が「花あったよ～」と笑顔で菜の花をもってきてくれました。家にこもってばかりの私でしたが息子に春の到来を教えてもらいました。湯前生活２年目。ことしも息子とたくさんの四季を探してみようと思います。（森田）

息子が一早く春を教えてくれました♪

2月15日（水）

湯中生が年金の必要性学ぶ
年金セミナー

「年金セミナー」が2月15日、湯前中学校（迫田正純校長）で開かれ、3年生27人が日本の社会制度を学びました。

早めに年金の必要性を知ることで、将来きちんと年金を納めてほしいと熊本西年金事務所が主催しています。日本年金機構地域年金推進委員の川原良介さんが講師を務め、20歳以上60歳未満の人が保険料を納めなければいけないことや年金の種類（老齢、障害、遺族）を説明。保険料の金額や学生の納付が猶予される「学生納付特例制度」も紹介しました。

老後に必要な生活費が一人当たり平均2660万円と言われる中で、老齢年金を40年間（768万円）納めたとき、約1560万円受け取れることも説明。川原さんは「あなたとあなたの家族のため。いざというときの資金。将来未納しないようにしてほしい」と呼びかけました。学生たちはクイズ形式でおさらいをして、理解を深めていました。

年金の必要性を学んだ生徒たち

2月24日（金）

ボールに慣れ親しんで
湯前保育園サッカー教室

湯前保育園（東理絵園長）のサッカー教室が2月24日に同園であり、4歳～年長児の36人がサッカーボールを使った遊びやゲームで楽しんでいました。

県内の子どもたちが早い時期からサッカーに興味を持つことで競技のレベルを上げようと熊本県サッカー協会キッズ委員会が主催。同保育園では年4回教室を開催していて、今回がことし4回目。コーチの小原英雄さんら二人が園児に笑顔で指導。園児たちは準備運動をしたあと、ビブスを使った「しっぽとり」やボールを使った「だるまさんが転んだ」などで楽しく体の使い方を学んでいました。

一番の楽しみは複数のボールを使ったゲーム形式。園児たちはゴールをめがけてシュートしたり、ゴールを防ごうと守ったりして元気にプレー。コーチからアドバイスも受けながら、サッカーに慣れ親しんでいました。

友達と楽しくサッカーをする園児たち

2月24日（金）

相手の気持ちを考えて行動
認知症予防サポーター養成講座

認知症予防サポーター養成講座が2月24日に湯前小学校（西浦大蔵校長）で開かれ、5年生（新6年生）23人が、認知症の知識を学んで、自分にできることは何かを考えました。

認知症を正しく理解して、当事者や家族を温かく見守り、支える人材を育てようと町が主催しています。「ゆのまえ読み聞かせなずなの会」の椎葉千富勢さん（50＝古城）が認知症についての絵本を朗読したあと、上球磨包括支援センターの山浦隆宏さんを講師に、児童は「65歳以上の5人に一人が認知症になっている」「認知症の原因になる病気は約70種類ある」などの認知症の種類や特徴を学びました。

現状を知った児童たちは5つの班に分かれて、当事者の気持ちや自分にできることは何かを考えていきました。それぞれ「傷つくことを言わず、やさしい言葉をかける」「一緒にいて、新しい思い出をつくる」「良いところを見つける」などと発表していました。

自分たちに何ができるかをグループで話し合った児童たち

2月25日（土）

映像で魅力発信、二人が優秀賞
B&G　PR大賞

（公社）B&G財団が主催する「2016B&GPR大賞」の映像部門で地域おこし協力隊の森田明大さん（29＝上村）と教育委員会でB&G海洋センター担当の工藤陽平さん（33＝下城）がともに優秀賞に輝きました。

同コンテストは海洋センターの魅力を住民に発信するために財団が企画し、2回目の開催。「海洋センター・クラブ自慢」をテーマに、利用者やクラブ会員が映像とポスターを作成。全国から映像部門に49点、ポスター部門に313点の応募があり、それぞれ最優秀賞1点、優秀賞10点が選ばれました。

2月25日に同財団専務の菅原悟志さんが町役場を訪れ、二人に表彰状を手渡しました。体育館で開かれたデジタル工作体験などのイベント写真を映像にまとめた森田さんは「町民の皆さんがさまざまな目線や立場で協力してくれたからこそ。今後も町の魅力を発信していけるよう頑張りたい」と話していました。

財団専務の菅原さんから表彰を受け取った森田さん（中央左）と工藤さん（中央右）

3月5日（日）

散策で日本遺産を楽しむ
奥球磨めぐりんフットパス

奥球磨3町村の日本遺産を歩く「奥球磨めぐりんフットパス」が3月5日に開かれ、郡市内や遠くは八代市などから45人が参加し、約6キロのコースを楽しく歩いていました。フットパスは森林や田園、古い街並みなど地域のありのままの風景を歩いて楽しむもので、「奥球磨広域推進協議会」（鶴田正已会長）と市民団体「フットパス相良路」（坂本克彦会長）が主催。

日本遺産に認定された人吉球磨の文化財の魅力を広め、くま川鉄道の利用にもつなげようと開催。今回は「猫寺コース」として約6キロのコースがつくられました。参加者は湯前駅よこの「湯～とぴあ」を出発し、御大師堂や下町橋、猫寺、百太郎堰をめぐって多良木町の新鶴羽駅まで散策。ゴール近くで雨が降ってきましたが、参加者は最後まで笑顔でコースを歩きました。参加者は「地元にいながら知らないことが多かった」「楽しく良い経験ができた」など感想を残していました。

町内の風景や文化財を歩いて楽しんだ参加者

3月6日（月）

次の5年生へ田を引き継ぐ
湯前小児童がトラクター乗車体験

湯前小学校児童のトラクター乗車体験が3月6日に同校グラウンド近くの田んぼであり、4月に6年生となる児童23人が、楽しみながら田んぼを耕し、次の5年生へ田を引き継いでいました。

同校では5年生が毎年6月から同じ畑で田植えや稲刈りを体験。乗車体験は児童たちにいろんな農業を体験をしてほしいと球磨地域農業協同組合（JA）青壮年部（深水信俊部長）の協力で毎年行われています。

青壮年部員から説明を聞いた児童たちは4つの班に分かれて、一人ずつトラクターに乗車。青壮年部員の教えを受けながら約3反の田んぼをトラクター4台で耕しました。

児童の頭にはヘルメット。乗車の待ち時間には青壮年部員が児童にトラクターの危険性も伝えていました。参加した黒木聡真くん（上里3）は「思っていたより簡単に操作ができた。ハンドルを回すのが楽しかった」と話していました。

教わりながら楽しくトラクターの操作をする児童

3月7日(火)

九州仏の魅力を知ってほしい
東京藝術大学が城泉寺の仏像を調査

さまざまな手法で仏像を調査する中尾さんら

東京藝術大学大学院で文化財の保存・修復彫刻を研究する教授・学生ら7人が3月7日に城泉寺阿弥陀堂を訪れ、X線やレーダーを使った計測で堂内の仏像を調査しました。

大学院生が卒業制作として仏像を模刻し、当時の技術を学んで将来の文化財修復に役立てることがねらい。製作に取り組むのは福岡県出身の中尾綾子(りんこ)さん（27＝大学院修士課程1年）。3年前に福岡県で開かれた九州仏特別展を訪れ、「繊細な着物の造形や表情豊かな顔つきでとても素敵な仏像だった」と、3体の阿弥陀像のうち、右脇侍（勢至菩薩像）をことし4月から模刻します。

写真撮影やX線を使った3次元のデータ計測などで仏像の内外を一日かけて調査。中尾さんは「材質や技法を再現しながら模刻する。研究を通して、地元九州にもたくさん素敵な仏像があることを知ってもらいたい」と話しました。完成後は同研究室が1年間の年報として実績を報告する予定です。

3月11日(土)

高木さん、真下さんが決意表明
自衛隊入隊予定者合同壮行会

たくさんの人に見守られ、自分の決意を語った高木さん

平成28年度人吉球磨地区自衛隊入隊予定者合同壮行会が3月11日にあさぎり町せきれい館で開かれ、4月から部隊に入隊する18人を家族や来賓らが激励しました。

壮行会は自衛隊家族会人吉球磨地区連絡協議会（井上朋和(ともかず)会長）が主催し、管内10市町村が協賛。本町からは海上自衛隊に入隊する高木潤人(ひろと)さん（24＝中里2）と陸上自衛隊に入隊する間下法慈(のりちか)さん（24＝下里）が出席。井上会長が「熊本地震や鳥インフルエンザの対応など、自衛隊に対する国民の期待が高まっている。その期待に応えられるよう初心を忘れず、訓練に励んでほしい」と激励しました。

入隊予定者は一人ずつステージに上がり、決意を表明。高木さんは「何ごとにも全力で取り組み、立派な自衛官になりたい」、真下さんは「仲間と切磋琢磨し合い、将来に活かせるよう頑張りたい」と力強く発表し、会場からは温かい拍手が送られました。

3月14日(火)

卒業生の「福」願う
かぼちゃの家が湯前小卒業生にストラップ寄贈

かわいらしいストラップを受け取る卒業生たち

地域活動支援センター「かぼちゃの家」（東明美(あけみ)施設長＝4人）が3月14日に湯前小学校を訪れ、卒業生33人に卒業記念として手作りストラップを寄贈し、門出を祝いました。

かぼちゃの家では身体・知的障害者らが潮神社にちなんだ「おっぱいストラップ」などの小物づくりを手がけ、各種イベント・施設などで販売。寄贈は同校児童の卒業を祝おうと12年間続けられています。

ストラップは3チセンほどのかわいらしい「ふくろう」。布と綿で作られ、青や水玉、迷彩など色とりどり。ふくろうは福を呼び、「不苦労」（苦労知らず）で不老長寿、学力向上に利益があるとされ、会員は真心を込めて作りました。

施設長の東さんは「ご卒業おめでとうございます。中学生になっても皆さんの健康と幸せを願っています」とエールを送り、利用者が卒業生一人一人にストラップを手渡しました。卒業生はもらったストラップをお互い見せ合ったりして喜んでいました。

中央公民館図書室

読書のススメ

◯平日　8：30～17：00
◯土日・祭日　9：30～17：00
※貸出期間は２週間で、一人５冊まで。

［お問い合わせ］中央公民館
TEL0966-43-2050

スカっとできて最後は泣ける。働く人たちに贈る「人生応援ストーリー」

ブラック企業にこき使われて心身ともに衰弱した隆は、無意識に線路に飛び込もうとしたところを「ヤマモト」と名乗る男に助けられた。同級生を自称する彼に心を開き、何かと助けてもらう隆だが、本物の同級生は海外滞在中ということがわかる。なぜ赤の他人を気にかけるのか？彼の名前をネットで検索し、出てきたのは三年前に激務で鬱になり自殺した男のニュースだった—。

ちょっと今から仕事やめてくる
北川 恵海（著）　メディアワークス文庫

松坂桃李＆樹木希林主演で映画化 心に染み入る感動の長編小説

一生に一度だけ、死者との再会を叶えてくれるという「使者」。突然死したアイドルが心の支えだったOL、年老いた母にがんを告知できなかった頑固な息子、失踪した婚約者を待ち続ける会社員…ツナグの仲介のもと再会した生者と死者。それぞれの想いを抱えた一夜。

ツナグ
辻村 深月（著）　新潮文庫

ふくが脱げなくたって、なんとかなる!?

人生の悩みごとは、ヨシタケ流ユーモアでのりこえよう！ふくがひっかかってぬげなくなって、もうどれくらいたったのかしら。このままずっとぬげなかったらどうしよう。でも、なんとかなりそうな気もする…！さて、どうする??

もう ぬげない
ヨシタケ シンスケ（著）　ブロンズ新社

ビジネス書大賞受賞作、3000冊の中から選ばれた“最も他人に薦めたい一冊”

「上司が部下に教えたいこと」「部下が上司に伝えたいこと」のすべてが1冊に凝縮！新入社員からベテラン、社会人から学生までだれでも読める。超一級の文芸書並みの表現力と、刺激的な文章!内容は深いのに、気軽に読めて爆笑が止まらない一冊。

最強の働き方　世界中の上司に怒られ、凄すぎる部下・同僚に学んだ77の教訓
ムーギー・キム（著）　東洋経済新報社

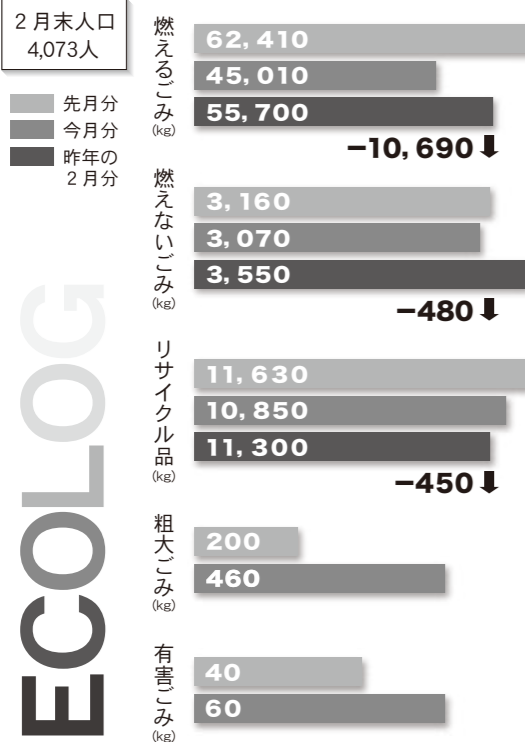
3月のごみ情報

家庭で生ごみを処理してエコしませんか？

～コンポストや処理機の補助があります～

ECOLOG

2月末人口 4,073人

種別	先月分	今月分	昨年の2月分	前年比
燃えるごみ(kg)	62,410	45,010	55,700	−10,690⬇
燃えないごみ(kg)	3,160	3,070	3,550	−480⬇
リサイクル品(kg)	11,630	10,850	11,300	−450⬇
粗大ごみ(kg)	200	460		
有害ごみ(kg)	40	60		

可燃ごみで一番多いのは生ごみで、約８割が水分です。生ごみを家庭で処理すると、温室効果ガスやごみの量が減ります。生ごみを処理する容器や機械の購入補助もありますので、ぜひご利用ください。

★生ごみ処理容器（コンポスト）
補助額　１個につき、購入価格の１/２の額（3,000円まで）
※１世帯２個まで

★生ごみ処理機（電動型）
補助額　１台につき、購入価格の１/２の額（30,000円まで）
※１世帯１台まで

リサイクルステーションからお願い

資源ごみをごみ袋に入れて持ち込んだら、入れてきた袋は持ち帰ってください。壁に掛けてある袋の中に汚れた袋や燃えないごみを入れてあることがよくあります。とても迷惑になります。ルールを守って資源ごみを出しましょう。

※4月の不燃物収集は**5、19日**です（第1・3水曜日）。

婦人会だより No.42

個人会員、支部復活OK！
入ってみらんね、婦人会に

湯前町地域婦人会
会長　橋田 實子

■２月～３月の行事

2月5日(日)　豚汁作り（青年団ミニサッカー大会へ）

例年「ぜんざい」を作っていましたが、ことしは豚汁に。子どもたちや青年団員に「おいしい！」と喜んでもらいあっという間に完食しました。

3月5日(日)　会員研修

里宮神社、安牧神社、世界かんがい遺産になった幸野溝（旧道）、王宮神社、生善院（猫寺）などを半日かけて見てまわりました。改めて奥球磨の文化財のすばらしさを感じました。

3月5日(日)　支部長研修

会員研修のあと湯楽里でパン作りを体験しました。同じように作ったつもりでも、できあがりの形はそれぞれ？自分の手で作ったパンをおいしくいただきました。

これから

4月2日(日) 午前９時～　郡婦連総会　あさぎり町深田「せきれい館」
午後～　福祉チャリティーショー

4月12日(水) 午後７時～　町婦人会総会　農村環境改善センター「中会議室」
講演　日赤熊本支部「防災の心がまえについて」

戸籍の窓

平成29年２月28日～平成29年２月１日

ご結婚おめでとう

溝下　寛明（野中田２）♥佐藤　絵里佳（千葉県）
赤堀　慎吾（静岡県）♥竹崎　文（野中田１）
倉本　良樹（馬場）♥杉本　凪（福岡県）
月足　彌（人吉市）♥西　智英美（下染田）

ご冥福をお祈りします

太田黒　満子（植木）
齊藤　タミコ（瀬戸口）
山本　覚（下村）

香典返し

太田黒　次美（植木）
齊藤　輝男（瀬戸口）
吉岡　美代（下里）
児谷　敏治（中里２）
尾方　葉子（上染田）

保健師だより

気軽に話せる雰囲気や体制づくりが大切です
～うつ病の治療～

始まりの春。環境の変化で希望と不安が入り交じる季節に起きやすいのが「うつ病」です。

特徴

- 10～15人に１人が１度は経験。めずらしい病気ではない。本町にも大勢いるはず。
- 平成25年の日本の患者数は約95万人。

なりやすい年代

- 高校生以降の青年期
- 40～50代
- 妊娠・出産・産後の時期
- 老年期　※しかしどの年齢でもみられる

落ち込みだけでなく、心、体にも症状が現れます

- 気分が落ち込み、何も楽しめなくなる
- 気分・思考・体の不調が重なって表れる（食欲の低下、眠れない、頭が働かずに動きがスローになる）
- 疲れやすく横になりがち
- てきぱき決められない
- 性欲の減退
- 自分は人の重荷だなと感じる
- 頭痛や腰痛などの体の痛み
- 死にたいと感じて、自殺しようとする　など

思考・心理

- 考え方が変わり、悲観的で、自分を責めてしまう
- 過去を振り返っても未来を考えても絶望する
- 病気の自覚がないことが多い

治療

傾聴だけで治すことは難しくいろいろな方法を組み合わせなければなりません。

- 通院と内服　・カウンセリング　・集団活動　・適度な運動
- 病気の情報提供　・先輩患者との会話　・家族関係の調整
- 適切な支援　サービスの活用　・職場環境の調整など

気軽に話せる雰囲気と支援体制づくり

精神科の受診に抵抗があり、話題にすることも抵抗があると感じる人がたくさんいます。病気について気軽に語り合える雰囲気づくりが大切です。休職した人の復職支援プログラムがありますが、まだあまり知られていません。通院・入院した人たちへの地域の支援体制も必要です。

3/29　職員研修（興野康也医師）の資料抜粋

今後町で取り組むこと

- 心の相談事業で気軽に話せる環境を整える
- 職場への復帰プログラムなどの情報を伝えていく
- 傾聴ボランテイアの育成や各団体の協力で支援体制をつくる

〈湯前町保健センター　文責　中西〉

編集後記
editiorial note

▼本町の歴史的な景観を残すための計画が国から認定されました。湯前には城泉寺や八勝寺などの文化財だけでなく、太鼓踊りや棒踊り、球磨焼酎など人の生活にも歴史が残されています。あわせて今回から、町の文化財を紹介するコーナーを新設。私も皆さんと一緒に町の歴史を勉強していきたいと思います。
▼公民分館に集まって、健康を高める「活き活き健康クラブ」が４カ所に。活動が広がっています。一人では続かない体操も、みんなで集まれば楽しく続けられそうですね。「自分たちの健康は自分たちで」。その言葉を実践していらっしゃる住民の皆さんの顔はとても活き活きしていました。
▼桜や菜の花。いよいよ春本番。広報を発行するころにはきっときれいな花が咲いているはずです。その景色に出会うためには外を出歩くことが必要。ことしも「足」を使った取材を心がけたいと思います。（宏）

［今月の表紙］
湯前保育園が通年取り組むサッカー教室では園児がボールを使って、元気に園庭を駆け回っています。複数のボールを使って試合。ゴールの前にはたくさんの園児。ボールをもった園児はゴールを目指して果敢に前へ進んでいました。

yunomae 04
Vol.430
APR.2017

湯前町広報誌

私も多くの人の支えに助けられた、何かしたいと思った―。

ZoomUp
—湯前町の輝きに迫る—

自主的に被災者を受け入れた湯楽里に九州運輸局から感謝状

九州運輸局長感謝状贈呈式が2月20日に熊本市の熊本テルサで開かれ、自主的に被災者を受け入れたゆのまえ温泉「湯楽里」（西美記子（みきこ）支配人）に感謝状が贈られた。

熊本地震で被災した住民のために活動した団体を九州運輸局が表彰。湯楽里は災害発生後、4月29日から5月21日まで無償で被災者の宿泊を受け入れ、4月23日から4月30日まで温泉も提供。28人が宿泊し、43人が温泉を利用した。コテージに宿泊した家族連れは「久しぶりに安心して眠れた。つかの間でもゆっくり過ごせてよかった。ぜひまた来たい」などとお礼を伝えた。支配人の西さんは「何か支援がしたいと思った。私も中学生のころに台風で自宅が被災し、そのとき多くの人のボランティアに助けられた。今回の地震も人ごとには思えなかった。一日でも早く、元の生活に戻れるよう願っている」と話した。他人の気持ちを考えて動く。「思いやり」と「行動」が人々の力になっている。

※ご意見投稿はこちらから

活き活きと輝き、誇れるまちゆのまえ
広報ゆのまえ４月号
TEL 0966-43-4111　FAX 0966-43-3013
URL http://www.town.yunomae.lg.jp/

発行／湯前町役場総務課 〒868-0621 熊本県球磨郡湯前町1989-1
発行日／平成29年3月31日 印刷／(有)町田印刷